

# 地価地方33年ぶり半数上昇

## 福岡市住宅地9.0%、2年連続首位

### 全国伸び率、バブル後最大

国土交通省が18日発表した公示地価(1月1日時点)によると、福岡市の住宅地が前年より平均9.0%上昇し、都道府県庁所在地では2年連続で全国1位の上昇率となった。全国平均は全用途が2.7%プラスで、バブル崩壊後最大の上昇。インバウンド(訪日客)の増加や堅調な住宅需要が地価を押し上げた。地方圏は調査継続地点のうち、19

92年以来、33年ぶりに半数で地価が上昇した。【6、7、32面に関連記事、13、16面に九州の公示地価一覧】日銀は昨年3月にマイナス金利を解除して利上げに転じたが、緩和的な金融環境が続く、地方でも地価の回復がさらに広がった。全国平均の上昇率は住宅地が2.1%、商業地が3.9%。全用途も含め4年連続で上昇した。交通便利性の良い都市部のほか、スキーリゾートなど訪日客に

人気の高い観光地や、半導体工場が進出した地域で高い伸びが続いている。地方圏は前年から調査を継続する1万3405地点のうち、半数を超える6706地点で上昇した。住宅地が上昇したのは、前年より1県増えて30都道府県。商業地が上昇したのは5県多い34都道府県だった。一方、地方圏の地価回復をけん引してきた札幌、仙台、広島、福岡の主要4市

■公示地価の平均変動率の平均は住宅地、商業地とも伸び率が鈍化した。福岡市の住宅地の上昇率は前年より0.6%低下したものの、全国トップを維持。大規模な再開発計画が進む九州大箱崎キャンパス跡地そばの東区箱崎6丁目の地点が19.3%プラスと全国9位の伸び率だった。福岡市の商業地は11.3%

	全用途	住宅地	商業地
全国	2.7 (2.3)	2.1 (2.0)	3.9 (3.1)
三大都市圏	4.3 (3.5)	3.3 (2.8)	7.1 (5.2)
東京圏	5.2 (4.0)	4.2 (3.4)	8.2 (5.6)
大阪圏	3.3 (2.4)	2.1 (1.5)	6.7 (5.1)
名古屋圏	2.8 (3.3)	2.3 (2.8)	3.8 (4.3)
地方圏	1.3 (1.3)	1.0 (1.2)	1.6 (1.5)
主要4市	5.8 (7.7)	4.9 (7.0)	7.4 (9.2)
4市以外	0.8 (0.7)	0.6 (0.6)	0.9 (0.6)
九州	3.1 (2.9)	2.8 (2.7)	3.3 (3.1)

※前年比%。かっこ内は前年。主要4市は札幌、仙台、広島、福岡

### 九州の上昇率上位10地点

#### 【住宅地】

1	熊本県合志市御代志字小池817番40	35,300	21.7
2	福岡市東区箱崎6-11-1	365,000	19.3
3	熊本県菊陽町光の森3-19-11	121,000	18.6
4	熊本県菊陽町大字津久礼字宮ノ上324番27	77,000	17.0
5	福岡市博多区三筑1-3-8	260,000	16.1
6	福岡市博多区麦野3-17-24	226,000	15.9
7	福岡市博多区諸岡1-24-10	245,000	15.6
8	福岡市中央区大宮2-4-31	688,000	15.1
9	福岡市中央区大濠1-13-26	1,310,000	14.9
10	福岡市東区筥松2-27-13	299,000	14.1

#### 【商業地】

1	熊本県菊陽町大字津久礼字石坂2343番2	125,000	30.9
2	熊本県大津町大字大津字拾六番町屋敷1096番2外	95,500	24.0
3	福岡市東区箱崎3-13-15	470,000	21.1
4	佐賀市大財3-10-26	133,000	19.8
5	佐賀市天神2-1-15	134,000	19.6
6	福岡市博多区竹丘町2-1-11	478,000	18.0
7	福岡市中央区長浜1-4-13	1,880,000	16.8
8	福岡市中央区舞鶴1-4-30	1,330,000	16.7
9	福岡市中央区清川2-4-19	872,000	16.6
10	福岡県糸島市前原中央2-10-30	127,000	16.5